二十一　お大師さん今昔

毎年四月二十一日と九月二十一日が縁日で、今日も続いている。当日は夜久野茶堂の大師堂でおまつりがあり、撞かれる鐘の音がただよって門前に当る付近の原野一帯に時ならぬ賑わいが見られる。方々より出店や見世物が多く集まり、テントがけの小屋の中では、不思議な演じものに魂を奪われる人や、野原のむしろの席で、うどんを食べる老若男女の姿が見られたものである。筆者が子供の頃も授業は午前中で終わり、近隣の子等の楽しみの日であった。この土地が丹但の境界にあるために、互いに見知らぬ人も多く、特有の雰囲気と情緒のあった子供の頃のことを懐かしく覚えている人も多い。しかし、時の流れと共に今ではかつての賑わいはなく、今日では屋台も一～二軒となり寂しい限りである。

昭和 60 年代前半

昭和 20 年代：村の若者が仮装して祭りに参加したのであろうか。